

IV 北海道の児童生徒の体力向上 に向けた有識者の意見

ここでは、全国体力・運動能力、運動習慣等調査における本道の実技調査及び質問紙調査の結果を踏まえた今後の取組の方向性について、有識者からいただいた意見を掲載しています。

各市町村教育委員会及び学校においては、本意見を参考にして、今後の取組を企画・立案いただくなど、児童生徒の実態に応じた体力向上の取組の充実に向け、御活用ください。

北海道における体育科教育の新たなステージ

北海道教育大学札幌校

教授 中島 寿宏

1. 体育・保健体育授業の改善と体力向上

北海道教育委員会による、「令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査『調査結果のポイント』」の結果では、北海道の体育授業の改善が確実に体力向上へとつながっていることが明らかになりました。今回の結果では、これまで北海道の課題として顕著であった下半身の動きを伴う項目の記録について、男女ともにいくつかの項目で全国との差が縮まっていました。このことについて、基礎的な運動能力を高める体育授業の改善が効果を上げつつあることを示しています。特に、持久力や俊敏性に関わる種目での向上は、体育授業内での運動量確保や授業設計の工夫などが影響を与えていると考えられます。

体育授業が学習として充実することで、児童生徒が運動の楽しさを実感し、自発的に取り組む姿勢が生まれます。この学びの深化が、体力向上という形で表れていると考えられます。調査結果でも、「体育の授業が楽しい」「積極的に取り組んでいる」と回答する児童生徒の割合が高まり、体育の授業が単なる身体活動の時間ではなく、学びの場として確立されていることが分かります。

また、体育の教科特性を生かした学習指導、授業の工夫、ICTの活用、体力向上を意識したカリキュラム設計など、多様な要素が結びつき、北海道の体育教育は進化を遂げています。特に、「中学校授業実践・改善セミナー」などを通じて、北海道各地で授業公開や研修会が実施され、教員同士が実践を共有し合う機会が増えていることも、今回の成果につながる要因の一つと考えられます。授業の質の向上を目指した継続的な研修が、実際の体育授業のレベルアップに貢献していると言えるでしょう。

2. 北海道における体育授業の進化がもたらす新たな文化

体育の授業が、単なる運動技能習得や体力作りの場から、より深い学びと自己成長の場へと変化しつつあります。その背景には、授業をより良いものにしようとする先生たちの取り組みがあり、子どもたち自身が運動を楽しみ、主体的に学ぶ環境が整えられてきたことが影響しています。

北海道では、体育の授業を担う先生たちが指導方法を工夫しながら、より魅力的で充実した授業づくりに挑戦し続けています。こうした創意工夫が、子どもたちの学習意欲を刺激し、運動へ

中学校授業実践・改善セミナーの様子



(石狩市立樽川中学校 穂積先生)



(遠軽町立遠軽中学校 尾崎先生)

の前向きな姿勢を生み出しています。特に、日々の授業の中で子どもたちと一緒に活動しながら、運動の楽しさや達成感を実感させる工夫を凝らしている教師の姿勢には、大きな敬意を表したいと思います。

児童生徒の運動・健康への関心が高まり、自発的に体を動かすことが当たり前になることで、一過性の成果ではなく、生涯にわたる健康的な生活習慣の礎が築かれます。北海道の体育教育が目指すのは、一時的な体力向上ではなく、運動が日常に根付く文化や環境づくりです。その意味でも、本年度の結果は、継続的な進歩の証と言えるでしょう。

3. 今後の課題と展望

北海道の広大な地域特性を考えると、全ての学校が同じ方法で成果を出せるわけではありません。それぞれの学校の環境や設備、地域ごとの運動機会の違いを考慮しながら、柔軟な指導が求められます。また、児童生徒一人ひとりの運動能力や興味関心に応じた指導を行うことで、より効果的な体育授業を実現することが可能です。教師が児童生徒の実態を丁寧に把握し、適切な支援を行うことが、今後の体育教育のさらなる充実につながるでしょう。こうした取組を支えているのは、現場の教師たちの不断の努力です。体育授業の改善に向けて試行錯誤を重ね、児童生徒の目線に立ち、運動の楽しさを伝えるために創意工夫を凝らす教師の存在こそが、北海道の体育教育の大きな支えとなっています。こうした現場の実践が、今後も北海道全体の体育授業の質をさらに高めていくことでしょう。

4. おわりに

令和6年度の調査結果は、北海道の体育教育の進化が確かな形で表れてきたことを示しています。授業改善の努力が、児童生徒の体力向上という具体的な成果につながっており、体育授業が、運動能力の向上だけでなく、学習意欲や健康意識の向上にも寄与していることが明らかになりました。特に、全国平均との差が縮まった項目が複数見られたことは、これまでの取組が正しい方向に進んでいることを裏付ける重要な成果です。一方で、さらなる改善が必要な部分についても明確になっており、今後の授業改革における指針となるでしょう。

北海道の体育教育は、新たなステージに入りつつあります。これまで積み上げてきた授業改善の成果をさらに発展させ、子どもたちが運動の楽しさを感じながら、健康的な生活を送る基盤を築けるよう、これからも進化を続けていくことが求められます。北海道の体育教育の未来に、大きな期待を寄せたいと思います。

参考文献

北海道教育委員会（2024）令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査「調査結果のポイント」. <https://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ktk/209309.html> .

創意工夫した教材で子どもたちに運動の楽しさを！

北海道教育大学旭川校

教授 高瀬 淳也

今年度も全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果が公表され、メディアでは「北海道は…」と他府県との比較が取り上げられるたび、胸の内に重いものを感じることがあります。しかし、これまでの体力合計点の経年変化を見ると確実な向上が見られ、報道が伝えるような暗い内容ばかりではありません。北海道教育委員会の教育長のコメントにもあるように、今年度の北海道の結果は「学校全体での運動意欲の醸成につながる授業改善や、家庭・地域と連携した望ましい運動習慣・生活習慣の確立に向けた取組を着実に進めてきたことが反映されたもの」と考えられます。これからも、児童や生徒が「楽しさ」を実感できる授業や取組を継続していくことが重要です。

3月上旬、九州体育・保健体育ネットワーク研究会に参加してきました。この研究会は、全国の体育科・保健体育科に関わる小・中学校や高等学校の関係者や教育委員会、大学関係者によって構成され、体育や保健の授業力向上を目指しています。この研究会において、大分県日田市立高瀬小学校の体育専科教員、岩崎敬先生の実践を聞きました。岩崎先生は、体育授業において豊かなスポーツライフを育むための「表現力」に焦点をあ



ゲームを見ながら実況中継する子どもたち
(岩崎先生のポスター発表の一部より)

て、スポーツ中継のような実況や解説を授業に取り入れるという新しい試みに挑戦されました。この授業を受けた児童からは「観る楽しさ」を感じたという声が挙がり、「する・みる・支える・知る」という多様な運動経験が授業を通じて実現されている様子がうかがえました。さらにこの実践では、単元の前半、児童にゴール型に関する知識の学習を行い、そこで得た知識を活かして実況という形に結びつけるという単元計画になっており、非常に興味深い取組でした。ボール運動領域や球技領域では、単元の終末にゲーム大会を設定することが多いと思いますが、その場面で児童や生徒に実況中継をさせたり試合後にインタビューを取り入れたりとすると、学習意欲がぐっと高まりそのような気がします。

このように全国では、児童や生徒に運動が「楽しい」と感じてもらえるような様々な工夫を取り入れた教材や指導方法が生み出されています。北海道も、全国の先生方に比べ引けを取りません。私は、北海道の小学校体育専科教員、小学校体育エキスパート教員、中学校体育授業実践スペシャリストの先生方の授業を拝見する機会がありますが、年々教材の工夫が進み、児童や生徒が楽しそ

うに運動に取り組む姿が多く見受けられます。最近では、中学校でも教材の工夫が積極的に行われるようになってきました。例えば、今年度拝見した中で、厚岸町立真籠中学校の八城雅彦先生の授業は、生徒の成功体験の機会を増やすという点で大変優れた教材であったと思います。八城先生に公開していただいた授業は、中学3年生を対象とした4対2のゲームでした。授業前に指導案を拝見したとき、「中学3年生にしては人数差があり、うまくいかないのではないか」と思いました。しかし実際の授業では、生徒たちが自分たちで考えプレイを実現することができ、成功体験から「もっとできるかも」という次なる挑戦意欲を引き出す効果的な授業となっていました。また、八城先生は、生徒一人一人に目を配り、声かけや称賛と共に次への課題も明確にすることで、授業全体に深い学びをもたらしていました。



個別指導をする

厚岸町立真籠中学校 八城先生

また、日高管内浦河町立荻伏中学校の水丸直瞳先生は、ネット型の学習で「ボールに正対する」動きを引き出すために、特殊な形状のボール【注】を用いて、相手からの返球をワンバウンドさせてからボール操作を行うミニゲームを取り入れていました。このボールは、しずく型でバウンド後の進行方向を予測できないため、コートにいる生徒は、ボールに正対し姿勢を低く保つようになりました。ボールもビーチボールのような素材で柔らかく、ボールをはじいても痛みがほとんどないため、水丸先生が目指していた動きの習得に非常に効果的でした。



ボールに正対してかまえる生徒
(水丸先生の授業より)

八城先生や水丸先生のような小学校体育専科教員、小学校体育エキスパート教員、中学校体育授業実践スペシャリストの先生方の創意工夫した優れた授業実践が、北海道教育委員会の「体力向上支援事業」で作成した「実践動画」(URL 限定公開)に掲載されています。ぜひとも、多くの先生方に手に取っていただき、子どもたちが運動の「楽しさ」を実感できる授業づくりに挑戦していただきたいと思います。

引用文献：令和6年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査 調査結果に関する教育長コメント

(北海道教育委員会ホームページより)

【注】 インターネット上で「フラバールバレーボール」と検索していただくと、水丸先生が実際に使用されたボールをご覧いただけます。

令和6年度どさん子元気アップチャレンジ



[ページ内目次](#) [令和6年度どさん子元気アップチャレンジ](#) ▾

令和6年度どさん子元気アップチャレンジ

令和6年度どさん子元気アップチャレンジ

今年度も「どさん子元気アップチャレンジ」を実施します！それぞれの体力や興味・関心に応じて、自己記録の更新や体力・運動能力の向上、運動習慣の確立に向け、積極的・継続的に運動に取り組んでいきましょう。また、仲間や保護者の方々、地域の方々とも一緒に共通の運動に取り組むなど、健やかな体づくりに向け、オール北海道で体力づくりを進めましょう！

[令和6年度どさん子元気アップチャレンジ 実施要項 \(PDF 184KB\)](#)

[令和6年度どさん子元気アップチャレンジ スケジュール \(PDF 273KB\)](#)

